

新任学年主任研修講座について

佐藤寿子

1. 新任学年主任研修講座（総合教育センター）の日程

I 期

- (1) 期 日 令和元年5月17日（金）
- (2) 場 所 秋田県総合教育センター
- (3) 日 程 9：30～10：00 受付
10：00～10：10 開講行事・オリエンテーション
10：15～11：45＜講義＞
望まれる学年主任蔵と学年主任の役割
12：45～14：20＜実践発表＞
学年経営の実際
14：30～16：15＜協議＞
学年経営における課題への対応

II 期

- (1) 期 日 令和元年6月27日（木）
- (2) 場 所 秋田県総合教育センター
- (3) 日 程 9：30～10：00 受付
10：00～11：50＜講義・協議＞
生徒指導における学年主任の役割
12：50～14：10＜講義・演習＞
学年経営と組織マネジメントの基礎
14：20～16：15＜講話＞
思春期の揺れと成長を共に歩む

2. 研修内容

第I期では、まず、学年主任の職務や求められる力についてのお話を伺った。学年主任には、経営案及び行事等の企画・立案、学校と学年、学年内の連絡調整、学年職員の指導助言などの職務があり、様々な役割を果たさなければならないことを学んだ。そのため、「専門的力量」、「チームリーダーとしての自覚」、「教職への情熱、総合的な人間力、人間愛」などの力が求められる。現在、生徒を取り巻く環境は大きく変化している。産業界が学生に求める能力は、主体性、実行力、チームワーク・協調性であり、我々は生徒の主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度を育てる必要がある。

また、昨年度まで学年主任を務めていたお二人の先生方から学年経営の実際というテーマでお話を伺った。秋田南高校の和田先生は問題が生じてもスムーズに対処する学年、学年部の職員がお互いカバーできる学年を目指したとのことだった。そのために大切なのは「明確な方針・指示」「信頼」「報告・連絡・相談」であると、具体例も含めお話くださった。金足農業高校の大久保先生の目指す学年主任像は「緩衝材であること」であり、円滑な学年経営に大切なことは職員

理解と保護者との連携である、とのことだった。お二人の先生方の具体的な取り組みを聞いて、今後どのように学年主任として仕事をしていくか考える参考になった。

次に、自校の課題とその対応について、小グループに分かれて情報交換をした。基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力をつけること、コミュニケーション力を育むことなどが共通した課題であった。課題に対する各校の対応策を聞き、参考になった。後半は、マンダラチャートを用いて、学年目標を達成するための方策を考えた。3×3マスのシートの真ん中に課題を書き、周りのマスに課題を解決するための方策をグループで考えて記入した。できあがった他のグループのマンダラチャートを見て、共通の悩みを抱えていること、各校の事情に合わせた対策が考えられることがわかった。

第Ⅱ期では、まず、いじめと不登校の理解と対応、未然防止の取組、保護者との連携についてのお話を伺った。いじめの早期発見のために学年主任が心がけることは、日常的に生徒の様子を観察すること、些細なことも見逃さないこと、情報共有する場を設けることである。不登校には「学校に行けない」「学校に行かない」「気力がない」の3つのタイプがあり、タイプを踏まえた対応が必要とのことであった。不登校はいったんなってしまうと抜け出すことが非常に難しいため、いじめと同様に未然防止に努めたい。また、「ありがとう」「うれしい」「助かった」という他者を勇気づける3つの言葉を積極的に使いたいと思った。

次に「あきたキャリアアップシート」を作成して、学校組織マネジメントの基礎についてのお話を伺った。生徒・保護者が何を求めているか分析し、よりよい学校になるようチームとして力を発揮できるよう努めたいと思った。また、SWOT分析を活用し、強みを生かした学年経営について演習を行った。羽後高校は羽後町唯一の高校として町の支援が手厚いく、現在の1年生は21名と少人数できめ細かい指導ができる。この強みを生かして特色のある学年経営ができるようにしていきたい。

最後に秋田赤十字病院の臨床心理士の丸山先生より、脳から見た思春期の特徴、学校緊急支援とスクールトラウマ、感情の社会化、思春期の課題、タイプ別基本対応、教師のストレスについてのお話を伺った。発達障害型の生徒、症状別の特徴や、対応、成長させるコツについてのお話を参考に今後対応していきたい。また、自らもセルフケアをしっかりとし、ストレスをためないようにしていきたい。

3. 最後に

2回の研修を通して、学年主任として求められる力や伝えたい言葉など他校の先生方と情報交換をしつつ確認することができた。時代の流れにアンテナを張りつつ、生徒の力を育てていきたい。「今のスタッフがベストメンバー」であること、望ましい学年部は「活動の目標を全員で作成、目標について全員が共通理解を持ち、実現へ向けた計画方法を全員で考え役割分担し、全員で実践する」という亀沢指導主事の言葉が印象に残った。現在1年部には様々な悩みを抱える生徒がおり、どのように良い方向へ持って行くか日々試行錯誤を繰り返している。この研修で学んだことを今一度振り返り、生徒や保護者の希望を第一に考えながらもともに成長していけるよう努めていきたい。